

# 「絵のなかの物語」

滝沢 具幸

東京藝術大学の正門を入ると左手に陳列館がある。その脇に昔から紫陽花が植えられている。この紫陽花は菱田春草が「水鏡」を描いたとき、手にもって写生したものだと聞いたことがある。美しい天女が紫陽花の傍らで水に映る自分の姿を見ている画である。美人も時を経ればこのような姿ではなく衰える時が来るという意を描いたものである。

私は学生時代、陳列館に飾られている「水鏡」を見た記憶がある。美しく澄んだ画であると感じ、これが郷土の先輩の作品なのだと感動した。後にこの作品は春草満23才の時のものであると知り驚

いた。水鏡を描いた次の年、師である東京美術学校の校長、岡倉天心が職を辞し、その翌年日本美術院が創立され、春草は天心の意を受けて、新しい絵画の創作に励むのである。校長天心の像は今も藝大の森の奥に鎮座している。

今回、飯田美博で市制施行70周年を記念して開かれる特別展「絵のなかの物語」は春草の「王昭君」を中心とした歴史画の展覧である。「王昭君」は春草が満27才で描いたタテ168cm×ヨコ

371cm余の大作で、中国前漢時代・匈奴との和解のため異国の地に嫁す王昭君の悲しい別れの場面を描いたものである。王昭君を見送る後宮の官女たちの姿が、豊かな色彩とハイライト

をさかせた朦朧体で描かれている。「水鏡」や「王昭君」など春草前半の作品であるが、作品の出来たいきさつや作品の中の物語を知ること

は見る者に画を読み解いてゆく楽しさがある。歴史や故事によって時代を遡り、観者を絵画の中へと誘ってくれるのである。

また今展では歴史画の中でも前期美術院と再興美術院の代表的作家の作品が陳列される。そのひとつひとつの中に秘められた物語を画家がいかにか描き出したかを探ってみたいものである。

## インフォメーション ⑩→③月

### ●美術博物館

お問い合わせ：0265-22-8118

#### ◎特別展示

絵画のなかの物語 10/20(土)→11/11(日)  
 -菱田春草「王昭君」と日本美術院の歴史画-  
 藤本四八 3/13(木)→4/20(日)  
 -美を追いかけた写真家の生涯-

#### ◎企画展・特別陳列

飯田町に書画あり 11/16(金)→12/24(月)  
 -井村萬之助と岩崎新太郎-  
 骨は語る 11/23(金)→2/11(月)  
 広瀬忠一の染めと織物 1/11(金)→2/11(月)  
 第8回 現代の創造展 2/19(火)→3/9(日)

#### ◎平常展示

菱田春草と飯田の美術 5 1/6(日)→2/11(月)  
 -鈴木芙蓉特集-  
 菱田春草と飯田の美術 6 2/19(火)→3/23(日)  
 -洋画家特集-

#### ◎プラネタリウム

秋の番組「伝令の神ヘルメス〜ギリシア神話の星物語〜」 → → 12/2(日)  
 冬の番組「地球発086便」 12/8(土)→3/2(日)

#### ◎特別展講演会

開幕記念講演会 10/20(土) 13:30~  
 特別講演会 ① 10/28(日) 13:30~  
 特別講演会 ② 11/4(日) 14:00~

#### ◎特別陳列ワークショップ

骨から学ぶあそび 12/8(土) 10:00~

#### ◎美博特別講座

旅の美術史(第4講) 11/18(日) 13:30~

#### ◎自然講座

飯田市ニツ山〜水晶山の地質的魅力 10/4(木) 19:00~  
 飯田下伊那の魚の現状 10/11(木) 19:00~  
 ご近所昆虫探検Ⅱ 11/8(木) 19:00~  
 山と盆地を歩いた54年 11/17(土) 13:30~  
 世界的な視点から自然利用と保護を考える 12/8(土) 13:30~  
 鳥から見た環境の変化 1/12(土) 13:30~  
 世界の屋根から見た日本の屋根Ⅴ 1/19(土) 13:30~  
 信州の獣たち 2/10(日) 13:30~  
 火山灰から見た伊那谷の生いたち 2/16(土) 13:30~  
 伊那谷自然史発表会 3/20(木) 10:00~

#### ◎美博文化講座

やさしい仏像の見方 -ホケケさまは選から生まれる- 10/2(火) 19:00~  
 天龍村坂部・九月の祭り 10/12(金) 19:00~  
 武田信玄関連地を巡る(見学会) 11/17(土) 9:30~  
 飯田町と藩士の暮らしぶり 4 3/2(日) 13:30~

### ◎子ども博物館くらぶ

子ども美術学校 10/13(土)・11/11(日) 13:00~  
 子ども美術学校卒業制作展 12/11(火)・16(日)  
 科学工作教室 11/10(土)・1/26(土) 10:00~  
 宇宙をのぞこう -親子で学ぶ天文教室-  
 ・秋の星座と星座ものがたり 11/17(土) 15:00~  
 ・北極星を探ろう 2/9(土) 15:00~  
 プラネタリウムかるた会 1/12(土) 10:00~

### ◎星空観察会

秋の星座と流星群 11/10(土) 18:30~  
 冬のダイヤモンドとカノーパス 2/9(土) 18:30~

### ◇特別開館日

◆臨時休館日 10/6(土)・10/16(火)・19(金)・11/13(火)・15(木)・2/17(日)・3/11(火)・12(水)

### ◎上郷考古博物館

お問い合わせ：0265-53-3755

#### ◎秋季展示

鏡百景 -古墳〜近世下伊那の鏡- 10/27(土)→12/2(日)

#### ◎秋季展示講演会

10/27(土)・11/17(土) 13:30~

#### ◎ぎやまん工房

1/12(土) 9:30~

#### ◎玉造部の会

12/16(日) 9:30~

#### ◎伊那谷の城郭探訪Ⅴ

11/11(日) 9:30~

#### ◎考古学基礎講座

2/24(日) 未定

#### ◎館長講座

3/9(日) 未定

#### ◆臨時休館日

10/25(木)・26(金)・12/4(火)・3/5(木)

### ◎追手町小学校 化石標本室

お問い合わせ：美術博物館へ

#### ◎公開日

10/14(日)・11/11(日)・25(日)・3/23(日) 10:00~16:00

#### ◎化石クリーニング

11/11(日) 10:00~16:00

#### ◎化石レプリカ作成

11/25(日) 10:00~16:00

### ◆寄贈品御礼

・アスリート写真パネル 水谷章人様  
 ・「天竜と共に」関連資料 木下平八郎様  
 ・「遠山産緑色岩」ほか 木下清行様  
 ・「蝶類標本」 熊谷隆様  
 ・「アオバト剥製」 福与佐智子様  
 ありがとうございました。

2007 VOL.078

# テラス

◎飯田市美術博物館ニュース◎

IIDA CITY MUSEUM NEWS "TERRACE" VOL.078

発行：飯田市美術博物館

http://www.iida-museum.org/



特別展示 飯田市制施行70周年記念特別展

絵画のなかの物語 — 菱田春草「王昭君」と日本美術院の歴史画 — ① 10/20(土) → 11/11(日)

日本美術院とは、明治31年(1898)に、東京美術学校の校長職を追われた岡倉天心が、彼に殉じて美術学校を去った作家たちを糾合して組織した美術団体です。ここには菱田春草や横山大観、下村観山、木村武山といった気鋭の青年作家たちが参集し、日本画の近代化を目指して様々な研究活動がおこなわれていました。なかでも「朦朧体」と呼ばれた没線主彩の画風の試みは、当時の美術界に大きな衝撃を与えています。しかしこの朦朧体は先鋭的に過ぎ、一般の鑑賞界からは受け入れられませんでした。また明治30年代中葉期には主要メンバーの外遊が相次いだこともあり、日本美術院は次第に求心力を失い、退潮の兆しを見せ始めます。そして明治44年に菱田春草が、大正2年(1913)には指導者・岡倉天心が没し、美術院は存続の危機に直面してしまいました。そこで横山大観は、観山と武山の旧メンバーに、安田靫彦・小林古径・前田青邨らを迎えて、大正3年に日本美術院の再興をはかります。この新メンバーたちは前期日本美術院がおこなっていた展覧会にも作品を寄せており、他方で紅児会という歴史画研究団体にも所属して研鑽を続け

ていた若手の実力作家たちでした。やがて彼らは東洋の古典絵画にヒントを得て「新古典主義」と呼ばれる画風を開拓します。そして新しい日本美術院を支える中心作家として活躍してゆくのです。この明治期の「前期日本美術院」と、大正3年以降の「再興日本美術院」の二つの美術院は、それぞれに独自の展覧会を開催していました。このなかで、ともに最も多く取り上げられたジャンルのひとつが「歴史画」でした。歴史画とは歴史上の人物や出来事、あるいは神話や伝承などが描かれた絵画のことを示します。今回

の特別展では、前期の美術院を担った菱田春草・横山大観・下村観山・木村武山と、再興期の美術院を支えた安田靫彦・小林古径・前田青邨の七作家を取り上げ、彼らが描いた「歴史画」の諸相を紹介しようとするものです。(小島)



①「石櫃」 前田青邨 昭和37年(1962) 東京国立近代美術館蔵



①「王昭君」 菱田春草 明治35年(1902) 善寶寺蔵

上郷考古博物館 平成19年度秋季展示

鏡佰景 — 古墳～近世下伊那の鏡 — ② 10/27(土) → 12/2(日)

弥生～古墳時代の日本では、鏡はありのままを映し出すその神秘性や貴重な金属であったことから、権力の象徴として、また呪術・祭祀の道具として扱われました。現代でも「三種の神器(鏡・剣・玉)」や神社の御神体としてその風習が残っています。また、鏡は、当初大陸からもたらされました。邪馬台国の女王卑弥呼が魏より鏡百枚下賜された話は有名です。次第にそれらを模倣して日本でも作られるようになりました。奈良時代も宝物や祭祀具として扱われ、一部の貴族のみが姿見や化粧道具として使っていたようです。

平安時代後期になると、鏡の意匠が唐草、鸞鳥や鳳鳥といった中国の想像上の鳥から、菊や松、鶴へと変化します。これは一連の国風文化の流れと同様、大陸様の鏡から和様の鏡が作られるようになります。

室町時代末期になると鏡に柄が着くようになります。いよいよ鏡も実用的になってきたのです。江戸時代に至り、鏡は嫁入り道具の一つになり一般庶民の化粧道具として広く使用されました。

今回の展示では飯田下伊那に残されている古墳時代から江戸時代の鏡を展示します。各時代の人々が鏡に寄せた想いや、美術品としての意匠も堪能していただければ幸いです。(吉川)

◎秋季展示講演会 (入場無料)

第1回 | 日 時 | 平成19年10月27日(土) 13:30→15:00  
| 演 題 | 「東アジアの中の和鏡」 — 文様と鑄造技術から —  
| 講 師 | 京都国立博物館工芸室長 久保智康氏

第2回 | 日 時 | 平成19年11月17日(土) 13:30→15:00  
| 演 題 | 「飯田の古墳文化と金属製品」(仮題)  
| 講 師 | 片山祐介氏

◎展示解説会

11月4日・12月1日(10:30→14:00 → 各2回)

特別展示

藤本四八 — 美を追いかけた写真家の生涯 — ③ 3/13(木) → 4/20(日)

飯田市松尾に明治44年(1911)に生まれ、日本の美をテーマに数々の写真集を刊行された写真家、藤本四八氏が平成18年8月19日に95歳で他界されました。当館では、平成7年に、四八氏ご本人より

戦後に撮影されたフィルムをご寄贈いただいています。今回の展覧会では、日本の風土を舞台に、写真による美や文化の描写を追求され、写真表現の時代を切り開いてこられた四八氏の生涯を振り返ります。

戦中から戦後にかけて撮影された奈良の古仏や当時の世相を捕らえた四八氏の原点といえる写真をはじめ、『装飾古墳』や『京の町屋』など隠された美を紹介した写真、『高野山』・『三熊野』・『白山』など信仰を風土や風景から紡ぎ出した写真、そして『鎌倉・むさしの仏たち』・『若狭古寺道遙』といった地域の古仏を追った写真など、その幅広い領域をもった作品を紹介していきます。

また本展では、四八氏の生前に写真集として刊行されなかった「東京」と「木曾」という二つのテーマを特集します。「東京」では、四八氏が生涯のほとんどを過ごし愛した都市「東京」が取材されています。1980年代、加速する経済成長を下地に世界有数の大都市へと発展していった東京の姿は、超近代化と昔ながらの生活が同居するアンバランスさを持っています。一方、「木曾」は四八氏の故郷長野県を被写体にした数少ない作品です。四八氏は、山国の文化や風景を生まれ育った伊那谷ではなく木曾に求めました。「東京」とは対面にあるような素朴な風土がそこには写し出されています。(横村)



②「薬師寺金堂 薬師如来坐像」 藤本四八 昭和25年(1950)頃 本館蔵



①「飛鳥の春の額田王」 安田靫彦 昭和39年(1964) 滋賀県立近代美術館蔵



③左から「新宿 高層ビル街(東京)」昭和55年(1980)頃 「上の段用水(木曾)」昭和47年(1972)頃 「羽子板市(東京)」昭和55年(1980)頃 「桶屋(木曾)」昭和47年(1972)頃 藤本四八 本館蔵



②「高砂文字入柄鏡」 藤原義信 19c 飯田市上郷歴史民俗資料館蔵



②「四獣鏡」 古墳時代 大宮諏訪神社蔵

表紙の作品 / 「霊昭女」 菱田春草 明治35年(1902) 絹本着色 119.3 × 49.0cm 本館蔵

霊昭女は中国唐代の人で、龐蘿居士の娘です。龐蘿は禅を学ぶために家財一切を川に沈め、開元寺の馬祖について禅を修めた人物です。霊昭女は幼い頃から父同様に禅に帰依して悟りを開きましたが、年老いた父母を養うために竹製品を売り歩いて孝養に尽くしたといわれます。春草の描く霊昭女は端嚴な表情を見せており、得悟に至った彼女の精神性が感じられます。

